

1



2

3

4

1. 全身タイツで現れたお父さん。楽しく家族写真を撮るパシャリ / 2. 子どもたちを笑顔にする馬場さんと妻の慈恵子さん / 3. 写真の横にメッセージなどを書く / 4. 参加者に募ったチャリティ募金を「子育てに役立ててください」と市に寄付する馬場さん（右）と、受け取る鹿股敏文こども部長（左）

「家族にありがとう」

12月25日⑥に「I LOVE DATE」写真撮影会が行われ、23組の家族が参加しました。写真を撮ったのは伊達市広報部長でプロカメラマンの馬場裕隆さんです。家族や友人など、身近な人への感謝の気持ちを改めて感じてもらう機会として開かれたもので、今年で2回目の開催となりました。親子や兄弟でおそろいの服を身につけたり、「Thank you」「いいないだて」などと書かれたメッセージを持ったり、思い思いに楽しみました。撮っている馬場さんも、撮られている家族からも、笑顔があふれる一日となりました。



市長コラム 第50回

「元気の源は人と人との交流」

須田博行

伊達市では、身近な集会所などで交流しながら、気軽に楽しく身体を動かす「元気づくり会」を実施しています。参加者が元気なのはどのようなのかと考えてみると、「身体を動かしているから」だけではないことに気づきます。参加者同士の交流が大きな要因なのは間違いありません。

コロナ禍でイベントや交流会などを中止せざるを得ない、またはリモートや書面での開催が当たり前となり、直接対面で会話する機会が少なくなっています。

確かに、感染防止や多様で効率的な働き方には、テレワークやリモート会議などデジタル機器の活用は欠かせないし、伊達市でもデジタル化を進めています。それが全てを満足させることはできないと考えています。デジタルとリアル（対面）の使い分けが重要になってきます。

そうした中、最近、県外や市内各地域で、総会や交流イベントなどが

行われるようになりました。直近では東京ドームでの「ふるさと祭り東京2023」への参加や、東京銀座での「あんば柿収穫セレモニー」の実施等々…。もちろん感染対策をしっかりとした上での開催であり、私も参加させていただいています。とても新鮮で楽しく、あつという間に時間が過ぎてしまいます。そしていつも感じるのは、皆さんと直接交流するたびに自分自身が元気になるということ。このコロナ禍に、健康ばかりではなく心の元気も奪われてしまっていたのかもしれない。

コロナはまだまだ予断を許さない状況であり、まずは感染対策、重症化予防対策をしっかりとっていただきたいと思っています。その上で、コロナ禍を経験したからこそ大切に気づくことができた「人と人との交流」を除々に再開してほしいと思います。それがウィズコロナを生きる私たちの「元気の源」になるからです。

編集・発行 伊達市総務部秘書広報課 令和5年1月26日発行 NO.204
〒960-0092 福島県伊達市原町字舟橋180番地 TEL024-575-1113 FAX024-575-2570 印刷・製本 株式会社 CIA